

第2章 第3次計画の基本的な考え方

第2次計画の成果、課題を踏まえ、5年間が経過した現在の状況のもとで、家庭・地域、学校、図書館・行政が連携して、取組事業を進めていくものとします。

1 計画の目標

子どもたちが求めるときに自由に本を選び、本に接することができる、そして、本の探し方や本の楽しさを伝えてくれる人のいる、豊かな読書環境を、家庭・地域、学校、図書館・行政が連携して整備していくことを目標とします（第1次・第2次計画での目標を踏襲）。

2 基本方針

次の基本方針により、本を通して人間関係が広がっていく取組を推進し、子どもたちと本のつながりを応援します。

1 読書の楽しさを伝えることを応援します。

子どもと本をつなぐ行事やブックリストの配布を通して、家庭で読書を楽しみ、本の楽しさを家族や友人と語り合えるような読書活動を推進します。

2 どこでも読書を応援します。

学校での朝読や学級文庫を、子ども読書パックの活用を通して支援します。

3 子どもと本をつなぐ人たちを応援します。

学校・地域・図書館・行政など、まわりの大人たちが子どもたちの読書の応援団になるような取組をしていきます。

3 重点取組事業

第3次計画では、3つの基本方針にそって、5つの重点取組事業を定め、計画を推進していきます。

1 読書へのきっかけづくり (基本方針1)

ブックスタート、おはなし会、としょかんいんになってみよう、などの行事を通じて、子どもたちに読書の楽しさを伝えていきます。

「読書通帳」を作成し、小中学校に配付します。

「図書館コンシェルジュ」を配置し、子どもの本の案内をします。

2 様々な子どもたちの読書活動 のニーズにあわせたサービス (基本方針1)

特別支援学級や障害児施設への子ども読書パックの貸出や訪問サービスの実施を継続していくとともに、ニーズに合わせたサービスをはかります。英語のおはなしかいや手話付きおはなし会などを取り入れて、幅広く子どもたちの読書活動を支援していきます。

3 学校と図書館との連携 (基本方針2)

学習パックや子ども読書パックなどの学校貸出を通じて、図書館と学校との連携を図ります。小中学校だけではなく、高等学校の学校図書館とも連携を推進していきます。

4 学校図書館の利用の促進 (基本方針2)

学校図書館は、学校における学習活動や読書活動の拠点として位置づいています。さらなる学校図書館の利用促進を目指し小学校の学校図書館専門員、中学校の読書活動推進員を通して子どもたちの読書環境を豊かにしていきます。

5 おはなしボランティアの 養成支援 (基本方針3)

図書館主催のおはなし会などで活動していただくボランティアを養成するとともに、おはなしボランティアの質的向上を図るため、ステップアップ講座を開催します。

4 推進のための体制

計画の推進のためには、家庭・地域、学校、図書館・行政が連携して取り組むことが大切です。連携をより円滑に図るため、第1次・第2次計画に引き続き、各図書館の窓口機能である「かまくら読書活動支援センター」が連絡・調整を担っていきます。

また、具体的に計画を推進する支えとなり、情報を共有化するための機能を、第1次第2次計画に引き続き「鎌倉市子ども読書活動推進連絡会」を発展させた「鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議」が果たしていきます。

■ かまくら読書活動支援センター

- ・ 計画に関わる企画・立案・行事の実施、行政の関係課・ボランティアなどの連絡・調整
- ・ 本の収集・貸出・搬送
- ・ 読書相談、所蔵調査、質問・相談の窓口
- ・ 協力し合える部署、施設、地域の団体の掘り起こしや、本や読書に親しむ環境が整っていない地域・施設などへのサービスの提供
- ・ 学校や他の施設、行政の関係課などとの連絡窓口として、各地域図書館にも連絡担当を配置

■ 鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議

- ・ 計画の策定
- ・ 計画の進捗状況を確認・検証・評価
- ・ 検証・評価の結果をいかし、情報交換を行いながら、子どもたちの読書環境がより整備されるための方策を検討・提案